コラム

評価結果から抽出された教訓～平成 25 年度 ODA 評価より～

外務省が実施するODA 評価では，当該評価案件の今後の方向性についての提案である提言に加え，提言のように直接かつ具体的な提案ではないが，他国や他の課題に対するODA 政策の立案や実施過程において将来役に立つと思われる事項として「教訓」が提示されることもあります。

昨年度実施した評価案件では，ラオス，スリランカ，コロンビアの各国別評価及びベトナム都市交通セクターへの支援の評価において，教訓が提示されました。いずれの教訓も今後のODA 政策の改善のために共通するものですが，ここでは中でも主立った教訓を紹介します。

（1）事前段階での目標の明確化及び具体的指標の設定の重要性

今後，ODA の政策レベルの成果を適切に評価するためには，国別援助方針などの事前段階での目標をより明確化するとともに，事業展開計画における個別の協力プログラムなどにおいて可能な限り具体的指標を設定することが重要である。（ラオス，スリランカ，コロンビア国別評価より）

（2）各国別評価に共通する課題の抽出と対応

日本の援助のあり方に共通する課題を整理し，改善に向かって取り組むことが必要である。そのため，実施された各国別評価の結果を横断的に分析し，共通の課題及び提言を抽出することが望まれる。（スリランカ国別評価より）

（3）人材育成におけるフォローアップ

人材育成支援無償（JDS）による留学経験者や本邦研修事業を受講した研修員等が帰国後，関連組織の幹部や経営層として活躍している状況をモニタリングしていくことは，今後の人材育成支援を検討する上でも重要であり，適切な育成人材のフォローアップ，データベースの整備などを促進するべきである。（ベトナム都市交通セクターへの支援の評価より）

これらの教訓に対し，例えば，「共通の課題の抽出」については，平成26 年度に「過去のODA 評価案件（2003 ～2013 年度）のレビュー」を実施，この中で過去の提言のとりまとめを行いました。

「過去のODA 評価案件（2003 ～2013 年度）のレビュー」報告書：

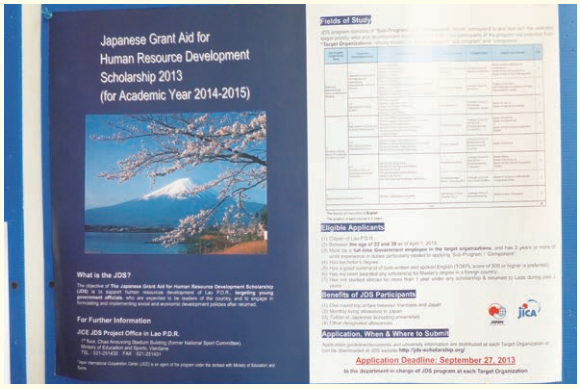
日本語版

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/pdfs_2014/14_kako_review_full.pdf

英語版

http://www.mofa.go.jp/policy/oda/evaluation/FY2014/pdfs/review_03-13.pdf

外務省としてもそれぞれの教訓で示されている問題意識を確認して，よりよいODA 実施のため，今後も対応を検討・実施していきます。



ラオス外務省に掲示されていた JDS の募集広告